

軽井沢土曜懇話会

第2回 6月25日(土) 15:00～

私の文学世界

昨年から今年にかけて『父の肖像』『終わりからの旅』といふ二つの長編を発表して、私はようやく、これから自分が書いていくべき道筋がぼんやり見えてきたような感じをしている。しかし、文学者もいつもその時代と対峙しなければならないのだから、社会が変われば文学者の姿勢も書法も変わらなければならない。文学を批判的な精神の営為としてとらえる時、エンターテインメント性に押され続けている現在の文学の状況は、衰微とか危機と呼ぶべきなのだろう。

これを乗り越えていくためには、明治以後の近・現代文学の遺産を脱構築し、伝統を再発見する作業が必要なのではないか。そんなことを意識の背景において、なるべく大学の講義ふうではないメッセージを考えている。

講 師 辻 井 喬 氏

(詩人、作家)

略 歴

昭和2年 東京生まれ。詩人・作家。東京大学経済学部卒業。
昭和30年に詩集『不確かな朝』を刊行、以来、数多くの詩集、小説、エッセイなどを出版。著書に小説『沈める城』、『風の生涯』、詩集『わたつみ三部作』他。平成5年、詩集『群青、わが黙示』で第23回高見順賞を受賞。平成6年、小説『虹の岬』で第30回谷崎潤一郎賞、平成16年、小説『父の肖像』で第57回野間文芸賞を受賞。

文筆活動の傍ら、日本中国文化交流協会会長として日中間の文化交流促進に努めている。